

REMORI MONTHLY /

2025年2月号
vol.25
IN ゆすはら

林業情報を発信！
りもりマンスリー

特殊伐採の魅力

「ウッドネイバーズ」仕事の魅力とは！
角金 玄 | p.02

木地師 はじめました

「kijishi.labo」林地残材で木工品を製作！
吉井 香在 | p.03

誰もが活躍できる林業

林業大学校での講演会に参加してきました。
長谷川 夏輝 | p.04

P.02



P.03



P.04



02 YouTube



梶原町森林再生プロジェクト 「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊のPR動画などを配信中！



03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

りもりメンバーが林業を通して梶原町の魅力を発信中！



山口佑貴



長谷川夏輝



荒木俊充



吉井香在



Coming Soon



Coming Soon

株式会社KIRECUB-きりかぶ-

下村 智也を代表取締役として、令和6年8月より造林・育林事業を基軸にした会社として設立。メンバーの大半は移住してから林業を始め、前職も全く畑違い。林業の魅力をもっと知ってもらう為に事業を運営しています。



ゆすはら森のおさんぽ会

梶原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようちえん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、5歳と2歳の子どもたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募集中！0歳からどなたでも参加していただけます。一緒に自然を満喫しませんか？



WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-

協力隊を卒業した角金玄が個人事業主として開業。ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。



kijishi.labo

協力隊の吉井香在が林地残材で木工作品を製作。放置されている材に新たな命を吹き込み、作品を通じて自然の美しさを表現します。一部作品はキャンプ場ショップINTO THE FORESTでも販売中。



特殊伐採の魅力

「ウッドネイバース」仕事の魅力とは

ウッドネイバースの角金です。今回は私の仕事である特殊伐採の魅力についてお話しします。

特殊伐採の魅力は、単なる仕事のスキルや体力を超えて、多くの要素が絡み合うところにあります。特に他の業種にはないユニークな点がいくつかあり、それが私を引きつけてやまない理由です。

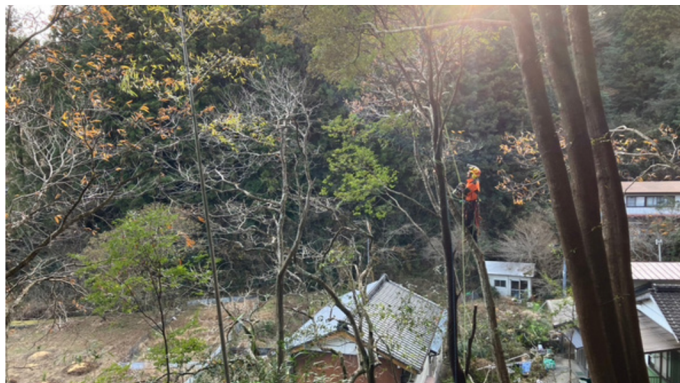
まず一つ目に挙げられるのは、**高度な技術が求められる点**です。特殊伐採は、ただ木を切るだけの作業ではありません。対象となる樹木が高い場所にあったり、周囲に住宅や電線があったりする場合、木を倒す方向や方法に細心の注意を払う必要があります。例えば、倒木の方向を精密に制御したり、作業中に枝などの落下物が周囲に影響を与えないように工夫したりします。このような繊細な作業を成功させるためには、豊富な経験と判断力、さらには高度な道具や技術を使いこなす能力が必要です。こうした挑戦的な作業をクリアするたびに、成長を実感できる点が非常に魅力的です。

次に、**自然との密接な関わり**があることも大きな魅力です。特殊伐採は、単なる「木を切る」作業にとどまらず、自然環境や地域の風景を守るために重要な役割を担っています。例えば、成長しすぎた木が倒れたりして道路や建物に影響を及ぼさないように伐採することで、人々の安全を守り、地域の景観を保つことができます。木を切ることで、他の植物が成長しやすくなる場合もあり、その土地全体の生態系を整える助けになることもあります。このように、自分の仕事が地域社会や自然環境に貢献している実感を得られるのは、特殊伐採ならではの魅力です。

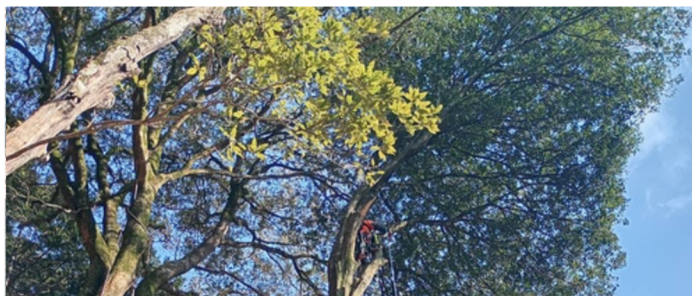
また、**安全管理の重要性**も、魅力の一つです。特殊伐採は危険を伴う作業ですが、その分、作業前にしっかりと計画を立て、安全を最優先にして進める必要があります。私たちがどんなにスキルを高めても、安全に対する配慮を怠ることは許されません。安全対策を徹底することで、現場がスムーズに進行し、お客様からも信頼される結果となります。このような責任感を持ちつつ作業をすることは、他の仕事では得られない達成感や充実感を感じさせてくれます。



民家裏の伐採風景



樹上作業の様子



そして、**ダイナミックな仕事環境**も魅力的です。特殊伐採の現場は、一つ一つが異なり、予測不能な要素が多いです。周囲の地形や天候、樹木の状態、作業の難易度など、どの現場でも新たなチャレンジが待っています。これらに対応する柔軟性が求められ、毎日が新しい経験の連続です。単調な作業ではなく、常に頭を使い、体を動かし、現場の状況に応じた対応をすることが求められる点が、飽きのこない魅力となっています。

最後に、**達成感と自己成長**です。特殊伐採は、やりがいがある大きな仕事です。何より、難しい作業を無事に終えたときの達成感は格別です。特に高所での作業や、危険を伴う現場での成功は、自分の成長を感じる瞬間であり、それが次のステップへのモチベーションになります。

特殊伐採は技術力、自然との調和、安全管理、そしてダイナミックな現場での挑戦が絶妙に絡み合った仕事であり、どこか魅力的でやりがいに満ちています。この仕事を続けることで、自分自身が成長し、地域社会にも貢献できる点が、私にとって何よりの魅力です。まだまだ未熟ですが、これからも精一杯頑張っていきますので、温かく見守っていただければ幸いです。

今回のREPORTER-リポーター-



WOODNEIGHBORS (ウッドネイバース)
角金 玄 -Gen Tsunogane-

ゆすはら地域おこし協力隊の第1号。
令和5年6月を以て3年任期を満了し、現在は、
WOODNEIGHBORS (ウッドネイバース) の屋号を掲
げて、特殊伐採の仕事で活躍中。



木地師はじめました

「kijishi.labo」林地残材で木作品を製作！

悪天候時の仕事として、木工旋盤を導入して、林地残材を活用した木作品を製作する取り組みは、地域資源の有効活用と環境保全に繋がり、新たな収入源の創出や木育に繋がる可能性があると思い始めました。

「林地残材の特徴と活用」

・梶原町では特に雑木として扱われることが多く、放置され朽ちたものでも木工素材として利用可能。

「木工旋盤の魅力」

・木工旋盤を使った「ウッドターニング」は、木材を削りながら作品を作る技術で、初心者でも楽しみながら学べる点が魅力です。
 ・これにより、放置材から高付加価値の製品を生み出せます。

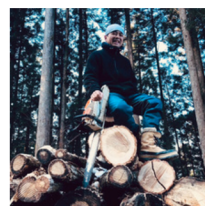
「地域資源活用のメリット」

1. 環境保全 : 林地残材の搬出は再造林の準備を簡略化し、山林管理コストを削減します。
2. 地域活性化: 地元産材を利用した製品作りは地域経済への貢献や観光資源にもなります。
3. 教育効果 : 木育活動を通じて自然や資源への理解が深まります。

現在は少しだけ製作の幅が広がり、花器、器、皿、コップ、ランプシェードなどを製作し、展示や販売などのイベントに少しずつ参加したりしています。

これからは林業×木工で梶原の水と森づくりに関心を持ってもらい、自然環境を良くしていけるような活動ができればと思います。

今回のREPORTER-リポーター-

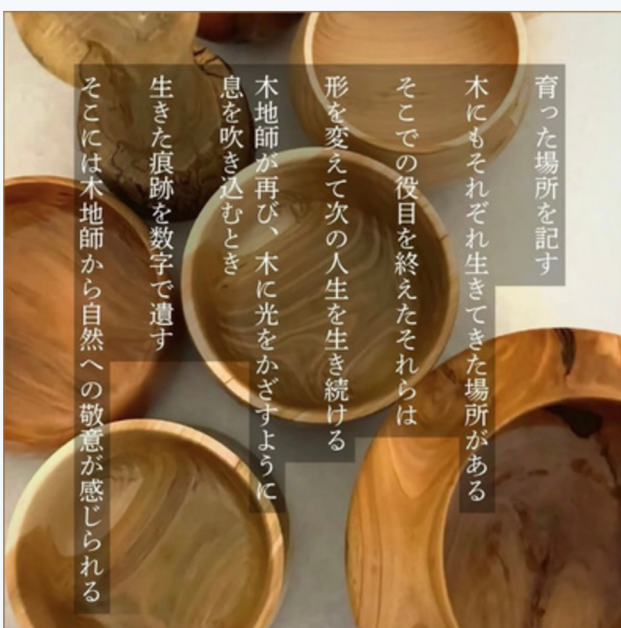


ゆずはら地域おこし協力隊
吉井 香在 -Takaaki Yoshii-

ReMORIの事業体で、皆伐、間伐、特殊伐採の勉強中。梶原の林地残材を使い、木作品を製作しています。水や自然にも関心があるので、生業と環境保全に対する自分の落とし所を探し中です。



木工旋盤を使った「ウッドターニング」



育った場所を記す
 木にもそれぞれ生きてきた場所がある
 そこでの役目を終えたそれらは
 形を変えて次の人生を生き続ける
 木地師が再び、木に光をかざすように
 息を吹き込むとき
 生きた痕跡を数字で遺す
 そこには木地師から自然への敬意が感じられる

「kijishi.labo」の思い

誰もが活躍できる林業・木材産業について



講演会の様子

多様な人材と働き方について考える

ゆすはら地域おこし協力隊の長谷川です。

あらためまして、協力隊の委嘱を受けて早3年、本年4月をもって協力隊卒業を迎えます。現在卒業に向けて準備を進めておりますが、卒業後は株式会社KIRecubとして造林・育林を主軸に変わらず林業へと携わっていく予定です。梶原町の林業に携わる皆様、町民の皆様方、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

また、卒業する者がいる一方で、入隊予定者もいるという声をちりと耳にしています。年度が変わってから着任予定とのことですので時期が近くなりましたら、またご報告いたします。

さて、新たな協力隊が増える予定ということにも関連して、今回はとある講演会についてレポート致します。

題して、「林業女子のキャリア論V ～誰もが活躍できる林業・木材産業とは？ダイバーシティ運営～」。

高知県立林業大学校で開催され、コーディネーターの「林業女子会」代表の井上 有加 氏のほか、林業・木材産業の経営者、現場技能者の方々をパネリストとして、「多様な人材」の活躍に向けた取り組みで林業の価値創造につなげている事例のご紹介をいただきました。

協力隊卒業を控え、今度は人材を受け入れる側としての心構えを勉強するべく、参加してまいりましたので引き続きご覧ください。

1人目のパネリストは株式会社はまさき 取締役の濱崎 康子 氏。和気藹々としてできる現場づくりのコツや、ベトナム人の技能実習生の雇用についてお話を伺いました。特に後者は、実際に現地視察を経てベトナムの林業事情を知った上での雇用、言葉や文化の壁を意識した教育など、丁寧なコミュニケーションを徹底している姿勢が印象的でした。その中で、「林業用語や方言などで癖のある言葉をわかりやすい言葉に統一することで誤認を防いでいる。」というお言葉には、県外からの移住者である私自身も共感しながら話を伺っていました。

次のパネリストは大豊林業株式会社 代表取締役の小川 智也 氏、取締役の川田 恭子 氏。異業種からの転職を経て、4代目社長へと就任した小川氏と、林業女子にも入会している川田氏のお話を伺います。

小川氏が社長に就任してから、まず行ったことは社内環境の徹底改善。会社の理念づくりをいちから組み上げ、林産課、造林課、貨物課からなる各課ごとにも理念を作ったとのこと。そういった社風改革によって、社員一人一人の仕事に対する意識が「無気力集団」から「精鋭集団」に変わっていったという話は印象的でした。

また、川田氏のお話では「多様性社会を気にし過ぎて、まるで割れ物を扱うかのように慎重に接してもらっている。女性ということに気をとられ過ぎず、もっとフランクに接してもらえるように自分からもオープンに接するよう心がけている」という話が印象的でした。

最後は、株式会社Foreque ブランドマネージャーの穴井 里奈 氏。今回唯一の県外からの登壇者で、熊本県南小国町にてご夫婦で製材業の傍ら、ForequeとしてライフスタイルブランドFILの運営、喫茶「竹の熊」の運営をしています。

製材業と地域おこしを掛け合わせた事業展開の話題は興味深く、小国杉を活用したテーブルや、エッセンシャルオイルの展開の他、喫茶「竹の熊」では、新穀の恵みを神に捧げ感謝する収穫祭「新嘗祭」を開催し、地域の無形文化財である神楽が奉納され、年間4万人以上お客さんが訪れる人気店になっているという。

神楽と聞くと梶原町にも通ずるものを感じ、同じく地域に密着して事業を行う立場としてとても参考になりました。

今回、講演会の冒頭で、井上氏が多様性の時代において「林業女子」という言葉自体が時代にそぐわないのではないかと苦言を呈していました。皆様の話はとても面白く、時流に応じた柔軟な考えを取り入れ、アップデートすることについて考える機会になりました。

こちらの記事を通して、皆様においても「誰もが活躍できる林業・木材産業について」考える機会となれば幸いです。

今回のREPORTER-リポーター-



ゆすはら地域おこし協力隊 / 株式会社KIRecub 長谷川 夏輝 -Natsuki Hasegawa-

神奈川県出身の地域おこし協力隊。協力隊生活も3年目に突入。3年間を経て造林に従事することを決意。(株)KIRecub-きりかぶ-にて日々、造林作業に励んでいます。他にもレーザーカッターを活用した木工品製作をしています。